

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 圭泉会		
事業所名	グループホームやすらぎⅡ(ユニットこもれびⅡ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町村受理日	令和3年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902611-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・朝の申し送りの時に、理念を復唱しており意識を高めている。また、ユニット別に3か月ごとの小目標を掲げ、ケアや支援につなげています。
・利用者の能力に応じた介助を心掛け、今出来るお手伝いを行って頂き、生活に張り合いが持てるように取り組んでいます。
・各担当者が、ご家族に向けたお手紙を毎月記載し、より良い関係性を築けられるよう努めています。
・勉強会は担当制で毎月行っており、体験や問題形式など工夫しながら現場での必要なことを学習し自己研鑽しています。
・町内会行事の清掃や廃品回収に参加し交流を図っています。
・法人の高齢者マネジメント会議など参加して、各セクションとの情報共有しています。
・利用者が必要な医療を受けられるよう、心身の状態観察し、必要時に看護師に連絡、指示を受けてできるだけ安心した生活が送られるように体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旭川市内中心部より8°程度西に位置し、動物園通りから数分奥まった住宅地に立地している。事業所の裏手には畑が続き、道路を挟んで住宅地が広がり、旭川東駅も徒歩圏内で、また母体の医療法人も間近という、静かだが利便性の高い環境下に建てられている。母体は医療法人で、病院の他に多くの介護事業を市内一円で展開しており、当事業所の建物は木造平屋造りで、2ユニット計18人の高齢者が生活を共にしている。開設は2006年で当地で15年が経過し、地域的な交流も自然体で維持されている。当事業所の優秀な点は、原則に沿った介護と対応を挙げたい。評価機関として家族アンケートを実施しているが、当事業所の回答は18件中18件で、全ての家族から返答があり100%の回答率で、利用者家族との親密な関係を伺わせる。内容的にはサービスに対して「大満足している」が68%「ほぼ満足している」が27%と満足度指数が合計95%を超えるのは、コロナ禍での逼迫的状況下での介護サービスに対して極めて高い数値であり、また自由記載欄での事業所の良い点として、職員の明るさ、笑顔での対応、親切丁寧等の賛辞が寄せられ、次に連絡が迅速で適切、家族の相談に親身になってくれると続き、また文末には必ず感謝していますと書かれるなど、信頼性の高い関係が維持されている。今後も「グループホームやすらぎⅡ」の原則に徹した介護に注目していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3ヵ月毎に理念に基づいた目標を立て、ケアに取り組んだ評価を行い実践に繋げている。	基本理念を振り返りながら職員間の話し合いの場を設けて、3ヶ月毎に具体的な目標を掲げ達成度を評価している。また利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、統一した介護サービスを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の廃品回収に参加したり、町内会長さんから野菜を頂いたりと交流している。毎年行っていた地域交流会は、コロナ禍の影響により開催できなかった。	開設後15年が経過し、地域とは親密な関係を維持している。通例では事業所として、積極的に地域行事、清掃活動等に参加しており、日常的な交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の来所時に、現在の様子や支援している内容を報告している。また、変わった事があれば、その都度電話での報告も行っている。又、グループホーム新聞でホームの様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は、口頭もしくは議事録で確認できている。	2ヶ月ごとに運営推進会議を定期開催し、苦情相談対応や地域交流会、災害対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が電話で市の担当者と連絡を取っており、それにより協力関係が築けている。	行政窓口とは、制度の解釈や法の疑義について何時でも問い合わせが出来る関係が維持されており、担当者との情報交換もスムーズに行われ、信頼性のある連携が確保されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員が中心となり、拘束を行わないための勉強会やマニュアルの記述式レポートを行っている。離設予防の対策として、玄関に大きな音がるよう鈴を付けて対応したりと安易に施錠しない意識付けが出来ている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月3事業所合同で開催し、現状の介護の可否を検討している。また議事の内容について、直近の会議で職員に周知徹底している。職員は拘束や抑制の不都合性を十分に理解しており、拘束や抑制等の制限とは無縁なケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアの事例検討を行ったり、ケアの振り返りシートを用い日々のケアを振り返り、虐待や不適切なケアを行わないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいないが、入居時に成年後見制度について説明をしている。また、スタッフも成年後見制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者対応しているがスタッフも内容を把握している。各家族に重要事項説明をしており、契約内容変更時は申し送りノートにて各スタッフに周知し家族に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時、家族会にて要望、質問を伺っている。2年に1回満足度アンケートを行っている。廊下の意見箱は安全に活用でき、プライバシーの配慮もした場所に設置している。	「やすらぎⅡグループホーム新聞」を年に4回発行し利用者の様子を伝える他に、請求書に個別のお便りや写真も同封している。また投書箱の設置や満足度アンケートも実施し、苦情や意見の集約を行い、サービスに繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	物品、備品に関してはスタッフの希望に応じて行っている。ミーティングや個人面談にて意見を募る機会を設けている。	定期の会議で職員から意見や提案を受け、また意見交換がどこでもできるような雰囲気作りも大切に考えている。年に2度、人事考課として管理者との個別面談も設定し、意見の集約や提案を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望の配慮や勤務超過、勤務時間内でのミーティング、年間に5日の年休が取れるようにし、勤務時間の調整をしている。また、処遇改善加算、特別処遇改善加算にて給与面でのやりがいも持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での新人研修や院内勉強会がある。また、外部の研修の時は勤務扱いとして参加出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスにて交流はとりにくくなっているが、法人内の委員会にて同業者との交流があった。また、1月までであったが地域包括支援センターのインクルの会にて法人外の実施設の同業者との交流もあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居があった際には面談時にスタッフも同行し本人と話をしている。サービス利用開始前の得た情報は記録を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年はなかったが入居があった時は、利用者・管理者が家族から話を伺っているがそこから得た情報は共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や事前面接にて情報の段階で必要な支援が何か確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る家事は一緒に行い、出来る事出来ない事を見極め利用者が困った時はさりげないフォローをしている。レクの時は一緒に調理することもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月手紙・面会や支払い時・電話時にて近況報告を行っている。家族に必要な物品を相談し用意してもらっている事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスにて現在面会が厳しい状況にて半年以上会えていない家族もいる為写真を送ったりしている。家族とお墓参りに行った利用者もいる。	昔からの行事や墓参り等は家族の協力を得ながら支援し、また馴染んできた食べ物も、味付けや食材に留意している。昔から好きだった馴染んできた関係等について、事業所の都合で途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮しながら、食席でコミュニケーションが取れる様にしている。必要時にはスタッフが声掛け・介入したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方の、様態急変時にスタッフがご見舞いに行けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録の共有で本人の言葉やその時の状態を知ることが出来、担当スタッフ、計画担当責任者を中心にスタッフ同士話し合いが出来ている。	日々生活を支える中から、好きな事や嫌な事を把握し、本人本位の生活が送れるように取り組んでおり、家族からの聞き取りや職歴や住んでいた地域を考慮し職員で検討しながら、介護に臨んでいる。	本人は最後の時間をどこで過ごしたいのか等に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、介護プランに活かすなどにより、本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コロナの関係で家族と直接会っての会話は減っているが、電話での会話の中から昔の様子や習慣を知ることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一方的に介助せず、有する能力の見極めをしておきスタッフ間でも話し合いをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・ショートカンファレンス・ユニットミーティング等スタッフ同士意見交換しケアに反映している。デイケアスタッフとも本人の状態やケアの方向性について意見交換している。	居室の担当者がモニタリングを行ない、ケアマネや施設長、担当者等々でカンファレンスからケアプランに繋いでいる。見直しは4ヶ月毎に行い現状に即したプランとなるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に変化のある方は特に細かな記録を行いケアの方向性のカンファなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、自由な外出は出来ないが買い物や屋食リクエストにも柔軟に対応しメニュー変更している。 制限はあるものの、継続して訪問美容の利用が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつも利用している事が出来ない時様態が続いているが、近所の自販機にはよく買いに行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態変化により、病院を変更する方もおり、家族や医師とも相談し、本人にとって最適な方法を選んでいけるよう努力している。	かかりつけ医は本人の希望を優先しているが、往診が必要な場合は再度家族と検討し、状況に応じて適切な医療となるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より状態の変化を常勤看護師に相談・報告し指示を仰いでいる。24時間体制で連絡相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が病院関係者と情報交換し退院に向けた調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があった時は医師や家族に伝えている。重度化した場合は可能な限りホームでの生活が継続出来る様模索している。	医療的な問題で看取り介護は行っていないが、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら、適切な方法を家族と共に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがある。救急隊員による講習も定期的に行っているが、今年は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災マニュアルの勉強会を行っている。災害時に備え、発電機や非常食を備えている。	年に2回、消防の指導により避難訓練を実施している。災害用の食料等備蓄品や停電時の自家発電も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し誇りを損なわない言葉かけに気を付けているが、認知症状が進行している利用者が増え、制止や指示的な声掛けも増えてしまっている。	プライバシーの保全や人格の尊重は、介護の基本を成すところであり、自己の態度や仕草、声掛けにも十分に注意し、利用者一人ひとりに慎重で丁寧な態度で接するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から思いを探り、自己決定出来る様な声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添える様支援している。添えない時は説明している。日課の声掛け等について、本人の性格・ペースを尊重したケアプランをたてている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナで外出が殆ど出来ない利用者にかわり、スタッフが手配したり、気温に適した衣類への助言をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の中で配膳やお茶汲みの機会をもたらし役割の定着した方もおられる。レクにおいて準備や調理の時間を共にしている。	食事は栄養価を考慮した、バラエティに富んだ内容となっている。また一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付け、食器洗い等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事の能力に合わせた食器を用いたり食事の分量や形にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し、必要な方には介助を行い状態に合わせ歯間ブラシや歯磨きクロスを用いている。訪問歯科による定期的な検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量や失禁、汚れの度合いを把握してトイレ誘導の時間、回数や間隔の調整、使用するパットの選定を行い負担をおさえ自立した排泄支援を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本として、一人ひとりの仕草やサインを見逃さずにトイレに誘導し、また定期的に時間でも声掛けしながら、自然な排泄になるように努めている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ腹部マッサージや下剤調整、看護師による処置を行っている。乳製品の摂取をして頂いている利用者もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて日時を調整、状況に応じて足浴や清拭の対応も行っている。	週に2回を入浴日と決めているが、突発的な事柄や急な外出、発熱での延期も含め、シャワー浴等で対応するなど工夫を凝らした支援しており、楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具の調整、保清に努めている。日中でも状況に応じて休んで頂いけるように、声掛けしたり、気持ちよく休息が図れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時の状態、症状変化の観察を追って行えておらず、継続した観察に努めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌番組録画したものを鑑賞して頂いたり、共用ホールの季節のしつらえを共同で創作活動を行う、刺し子作りを進める支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	色々な制限がある中、ご家族とお墓参りに行かれたり、近場への散歩、近くの病院の受診の際に車椅子で通ったりしている。	季節や天候と相談しながら、一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴等で戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、外泊や外食、地域のお祭り等で普段は行けないような場所でも、出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自らで所持し管理されている方もいるが、職員で管理している事の方が多い。今年は色々制限があった為、支払いはして頂かなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフからの声掛けにて、ご本人への差し入れ等のお礼の電話をご家族にかけたりして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの位置や座る席、TVの向きを調整し、みんなで楽しめる様配慮している。また、食事の席も状況を考慮し席替えを行う事もある。心地よく生活出来る様照明や室温にも配慮している。季節感を採り入れる為、スタッフと利用者が共同し季節に合ったイラストの掲示や飾りつけをしている。	居間は大きく開放的であり、温度や湿度も適正に保たれている。利用者にとって不快な臭いや雑音等も感じられない。また行事写真や季節毎の飾りつけが行われ、生活感や季節感を大切にし、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自ら選んで座るソファの席や食事席、廊下にもソファ設置し、気軽に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具や好みの化粧品、家族の写真など愛着のある物を使用され、居心地よく過ごすことが出来るよう安全にも配慮し環境整備も行っているが、ADLの低下に伴い、時には危険な事に繋がる場合もあり撤去する事もあった。	居室には、使い慣れた家具や仏壇、寝具が持ち込まれ、利用者の動線等、安全に配慮しながら本人が自分の部屋として、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方が増えてきていて、共存が安全に出来るよう配慮し、個々の状態も考慮し動線の障害にならない様配慮している。また、わかり易いようにテーブルに名前シールを貼っている。		